



菊水電子工業株式会社

第68回

定時株主総会招集ご通知

2019年6月27日(木曜日)午前10時

新横浜国際ホテル マナーハウス4階 ヒルトップ

神奈川県横浜市港北区新横浜 3丁目7番地8

議決権
行使期限

2019年6月26日(水曜日)
午後5時30分到着分まで

私たち菊水は 自由に豊かな発想と 行動力で“創発”し 社会と共に進化します

自由な発想と行動力で、社会と共に進化する



目次

| | |
|---|----|
| 株主の皆様へ | 02 |
| 第68回定時株主総会招集ご通知 | 03 |
| 株主総会参考書類 | |
| 第1号議案 剰余金処分の件 | 05 |
| 第2号議案 取締役5名及び 補欠取締役1名選任の件 | 06 |
| 第3号議案 監査役3名及び 補欠監査役1名選任の件 | 10 |
| 第4号議案 取締役（社外取締役を除く。）に対する譲渡制限 付株式の割当てのための 報酬支給の件 | 13 |
| 第5号議案 取締役賞与支給の件 | 14 |
| 第6号議案 当社株式の大量買付行為 に関する対応策（買収防 衛策）の継続の件 | 15 |

事業報告

| | |
|--|----|
| I 企業集団の現況に関する事項 | 34 |
| II 株式に関する事項 | 42 |
| III 新株予約権等に関する事項 | 43 |
| IV 会社役員に関する事項 | 44 |
| V 会計監査人に関する事項 | 46 |
| VI 業務の適正を確保するための 体制の整備についての決議の内容の概要 ... | 47 |
| VII 株式会社の支配に関する基本方針 | 50 |
| VIII 株式会社の状況に関する重要な事項 | 51 |

連結計算書類

| | |
|--------------------|----|
| 連結貸借対照表 | 52 |
| 連結損益計算書 | 53 |
| 連結株主資本等変動計算書 | 54 |

計算書類

| | |
|------------------|----|
| 貸借対照表 | 55 |
| 損益計算書 | 56 |
| 株主資本等変動計算書 | 57 |

監査報告書

| | |
|--------------------------|----|
| 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 ... | 59 |
| 会計監査人の監査報告書 | 60 |
| 監査役会の監査報告書 | 61 |
| KIKUSUI WEBのご案内 | 63 |



株主の皆様へ

全世界へ、KIKUSUIブランドの浸透を目指します

株主の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループは、次世代自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に、当社の強みであります豊富な製品群及び新製品を軸に、先進的な提案型営業活動と研究開発活動を進めてまいりました結果、当連結会計年度は、前期比増収、増益となりました。

これもひとえに株主の皆様、お客様のご協力、ご支援、そして販売代理店や仕入先の皆様の努力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

来期以降も引き続き継続的な発展のため、「私たち菊水は自由で豊かな発想と行動力で“創発”し社会と共に進化します」という経営ビジョンのもと、激変する社会や経済に即応できるパワー溢れた企業、そして全世界へ視野を広げた戦略的且つ機動的な企業を目指して邁進していく所存です。

なお、当期の期末配当につきましては、企業体質の強化と今後の事業展開等を勘案し、普通配当を前期比1円増配し、1株当たり23円とすることを第68回定時株主総会でご提案申し上げたいと存じます。

お客様のご愛顧と当社を支えていただいている株主の皆様に心より感謝を申し上げますと共に今後も一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年6月

代表取締役社長

小林一夫

株 主 各 位

神奈川県横浜市都筑区東山田一丁目1番3号

菊水電子工業株式会社

代表取締役社長 **小林 一夫**

第68回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第68回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、後記の株主総会参考書類をご検討くださいます。同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、2019年6月26日（水曜日）午後5時30分までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2019年6月27日（木曜日）午前10時
2. 場 所 新横浜国際ホテル マナーハウス4階 ヒルトップ
神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目7番地8

3. 目的事項

報告事項

1. 第68期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第68期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）計算書類報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金処分の件
- 第2号議案 取締役5名及び補欠取締役1名選任の件
- 第3号議案 監査役3名及び補欠監査役1名選任の件
- 第4号議案 取締役（社外取締役を除く。）に対する譲渡制限付株式の割当てのための報酬支給の件
- 第5号議案 取締役賞与支給の件
- 第6号議案 当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）の継続の件

4. 議決権行使についてのご案内

- (1) 代理人により議決権を行使される場合は、当会社の議決権を有する他の株主の方1名を代理人として株主総会にご出席いただけます。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となりますのでご了承ください。
- (2) 議決権の不統一行使をされる場合には、株主総会の日の3日前までに議決権の不統一行使を行う旨とその理由を書面によりご通知ください。

議決権の行使についてのご案内



株主総会にご出席いただける場合

同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。(ご記入・ご捺印は不要)
また、資源削減のため議事資料として本冊子をご持参くださいますようお願い申し上げます。

日 時 2019年6月27日(木曜日) 午前10時



株主総会にご出席いただけない場合

郵送で事前に議決権を行使いただけます。
同封の議決権行使書用紙に各議案に対する賛否をご記入いただき、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

行使期限 2019年6月26日(水曜日) 午後5時30分到着分まで

以 上

■当社は、以下の事項をインターネット上の当社ウェブサイトに掲載しておりますので、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、本招集ご通知の添付書類には、当該事項は記載していません。

①連結計算書類の連結注記表②計算書類の個別注記表

■株主総会参考書類並びに事業報告、連結計算書類及び計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載させていただきます。

▶ 当社ウェブサイト: <http://www.kikusui.co.jp> 菊水電子工業 検索

第 1 号議案 剰余金処分の件

剰余金の処分につきましては、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けており、業績に対応した配当を行うことを基本としつつ、企業体質の強化と今後の事業展開等を勘案し、内部留保にも意を用い、決定する方針をとっております。

当期の期末配当につきましては、株主各位の日頃のご支援に報いるため、普通配当を前期比 1 円増配し、1 株につき 23 円とさせていただきますと存じます。

1. 期末配当に関する事項

| | |
|--------------------------|--|
| (1) 配当財産の種類 | 金 銭 |
| (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額 | 当社普通株式 1 株につき 金 23 円 配当総額 金 189,640,750 円 |
| (3) 剰余金の配当が効力を生じる日 | 2019 年 6 月 28 日 |

2. 剰余金の処分に関する事項

| | | |
|---------------------|---------|---------------|
| (1) 増加する剰余金の項目及びその額 | 別途積立金 | 270,000,000 円 |
| (2) 減少する剰余金の項目及びその額 | 繰越利益剰余金 | 270,000,000 円 |

第2号議案

取締役5名及び補欠取締役1名選任の件

本総会終結の時をもって取締役小林一夫、小林剛、木村訓芳、岩崎光雄、流石昭仁、吉澤英三の6氏は、任期満了となります。つきましては、取締役5名の選任をお願いするものであります。

また、社外取締役が欠ける場合に備え、予め補欠取締役1名の選任をお願いするものであります。取締役として就任した場合、その任期は前任者の残任期間とします。決議の効力は次回定時株主総会開始の時までとします。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者 番 号 | ふりがな 氏 名 (生年月日) | 略歴、地位及び担当並びに重要な兼職の状況 | 所有する 当社の株式数 |
|------------|--|--|----------------|
| 1 | 再任 こ ばやし かず お 小 林 一 夫 (1954年3月17日生) | 1983年9月 当社入社 1994年4月 当社経営管理室長 1994年6月 当社取締役経営管理室長 1997年6月 当社常務取締役 1999年6月 当社専務取締役 2001年6月 当社代表取締役専務 2003年6月 当社代表取締役社長（現任） 2015年4月 当社内部監査室長（現任） 2017年4月 当社未来創発室長（現任） | 521,260株 |
| 2 | 再任 こ ばやし つよし 小 林 剛 (1957年1月12日生) | 1982年4月 ケル株式会社入社 1992年2月 株式会社ブライト・インターナショナル 設立、代表取締役 2001年6月 当社常勤監査役 2003年6月 当社取締役人事総務部門担当 2006年4月 当社常務取締役新規事業推進本部副本部長、製品企画部門担当 2006年4月 KIKUSUI AMERICA, INC. CEO 2007年1月 菊水貿易(上海)有限公司董事長 2007年6月 当社専務取締役販売関連部門統括 2010年4月 当社専務取締役生産本部長、社長室長 2015年4月 当社専務取締役事業推進室長、グローバル事業部長、中国支社長 2017年4月 当社専務取締役社長室長、技術本部長、生産本部担当 2017年6月 当社専務取締役社長室長、技術本部長（現任） | 186,060株 |

| 候補者 番 号 | ふりがな 氏 名 (生年月日) | 略歴、地位及び担当並びに重要な兼職の状況 | 所有する 当社の株式数 |
|------------|---|---|----------------|
| 3 | <div>再任</div> <div>いわ さき みつ お 岩 崎 光 雄 (1959年2月14日生)</div> | 1984年 6 月 当社入社 1999年 4 月 当社営業企画部門マネージャー 2004年 4 月 当社販売企画室長 2007年 4 月 当社執行役員市場開発部門・ソリューション営業部門・販売部門・販売支援部門担当 2008年 4 月 当社執行役員販売部門・営業支援部門担当 2009年 4 月 当社執行役員国内営業部門担当 2010年 4 月 当社執行役員社長室経営企画担当 2011年 4 月 当社執行役員開発本部本部長補佐 2012年 4 月 当社執行役員ソリューション事業部事業部長補佐 2016年 4 月 当社執行役員ソリューション事業部副事業部長 2017年 4 月 当社執行役員ソリューション事業部長 2017年 6 月 当社取締役ソリューション事業部長(現任) | 7,500株 |
| 4 | <div>再任</div> <div>さ す が あき ひと 流 石 昭 仁 (1961年5月5日生)</div> | 1984年 4 月 当社入社 2005年 4 月 開発部門マネージャー補佐兼開発管理課長 2008年 4 月 生産技術部門マネージャー代理 2010年 4 月 当社社長室新規事業推進担当部長 2012年 4 月 当社ソリューション事業部事業部長補佐 2014年 4 月 当社執行役員菊水中国支社長補佐 2015年 4 月 当社執行役員ものづくり本部副本部長 2017年 4 月 当社執行役員生産本部長 2017年 6 月 当社取締役生産本部長 (現任) | 12,700株 |

| 候補者 番 号 | ふ り が な 氏 名 (生年月日) | 略歴、地位及び担当並びに重要な兼職の状況 | 所有する 当社の株式数 |
|------------|--|--|----------------|
| 5 | <div>再任</div> <div>よし ざわ えい ぞう 吉 澤 英 三 (1945年3月20日生)</div> | 1963年4月 東京国税局入局 1992年7月 江戸川税務署副署長 1994年7月 東京国税局調査第一部特別国税調査官 1995年7月 東京国税局徴収部統括国税徴収官 1996年7月 東京国税局総務部人事調査官 1998年7月 東京国税局総務部考査課長 1999年7月 東京国税局総務部人事第一課長 2001年7月 国税庁長官官房厚生課長 2002年7月 国税庁長官官房総務課監督評価官室長 2003年7月 金沢国税局長 2004年8月 税理士登録（現任） 2007年6月 当社監査役 2015年6月 当社取締役（現任） | 5,000株 |

- (注) 1. 各候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 小林一夫氏及び小林剛氏の所有する当社の株式数は、両氏の資産管理会社である株式会社ケーティーエムが保有する株式数を含んでおります。
3. 吉澤英三氏は社外取締役候補者であります。また、同氏は、現在、当社の社外取締役であります、社外取締役としての在任期間は本総会の終結の時をもって4年となります。
4. 吉澤英三氏につきましては、過去に会社経営に関与された経験はありませんが、国税庁における実績及び税理士としての実績を高く評価し、適切な指導及び社外取締役としての職務が遂行できるものと判断しております。また、同氏につきましては、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

補欠取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者 番 号 | ふりがな 氏 名 (生年月日) | 略歴、地位及び担当並びに重要な兼職の状況 | 所有する 当社の株式数 |
|------------|--|--|----------------|
| 6 | しん たに いつ お 新 谷 逸 男 (1953年11月25日生) | 1972年 4 月 東京国税局入局 2001年 7 月 国税庁長官官房人事課課長補佐 2002年 7 月 館山税務署長 2004年 7 月 東京国税局調査第 1 部特別国税調査官 2006年 7 月 東京国税局総務部国税広報広聴室長 2008年 7 月 杉並税務署長 2009年 7 月 東京国税局総務部総務課長 2010年 7 月 国税庁長官官房監督評価官室長 2012年 3 月 沖縄国税事務所長 2013年 6 月 金沢国税局長 2014年 8 月 新谷逸男税理士事務所開設（現任） | 一株 |

- (注) 1. 候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 新谷逸男氏は補欠の社外取締役候補者であります。
3. 新谷逸男氏につきましては、過去に会社経営に関与された経験はありませんが、国税庁における実績及び税理士としての実績を高く評価し、適切な指導及び社外取締役としての職務を遂行することができると判断しております。

第3号議案

監査役3名及び補欠監査役1名選任の件

本総会終結の時をもって監査役山崎俊宣、二宮嘉世、北川貞幸の3氏は、任期満了となります。つきましては、監査役3名の選任をお願いするものであります。

また、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、予め補欠監査役1名の選任をするものであります。監査役として就任した場合、その任期は前任者の残任期間とします。決議の効力は次回定時株主総会開始の時までとします。なお、本議案の提出につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者 番 号 | ふりがな 氏 名 (生年月日) | 略歴、地位及び重要な兼職の状況 | 所有する 当社の株式数 |
|------------|--|--|----------------|
| 1 | <div>再任</div> <div>やまざきとしのぶ 山崎俊宣 (1955年3月21日生)</div> | <div>1978年4月</div> 株式会社旭通信社（現株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ）入社 <div>1999年1月</div> 同社第13営業本部グループ長 <div>2005年1月</div> 同社テレビラジオ本部ラジオ局長 <div>2008年7月</div> 同社テレビラジオ本部第2テレビタイム局長 <div>2010年1月</div> 同社テレビラジオ本部テレビ局長 <div>2011年1月</div> 同社テレビラジオ本部長 <div>2015年4月</div> 当社入社 <div>2015年6月</div> 当社常勤監査役（現任） | 1,000株 |

| 候補者 番 号 | ふ り が な 氏 名 (生年月日) | 略歴、地位及び重要な兼職の状況 | 所有する 当社の株式数 |
|------------|---|--|----------------|
| 2 | <div>新任</div> なか むら あきら 中 村 彰 (1956年5月7日生) | 1979年4月 株式会社第一勧業銀行（現株式会社みずほ銀行）入行 2003年3月 同行横須賀支店支店長 2005年4月 同行業務監査部監査主任 2007年2月 同行本店付参事役 2007年4月 株式会社ぎょうせい業務監査室室長 2008年9月 同社営業部部長 2009年9月 同社クリエイティブ事業部部長 2011年5月 中央ビルマネジメント株式会社ビル管理第一部長 2013年2月 中央不動産株式会社総務部長 2014年6月 同社執行役員総務部長 2019年2月 同社内部監査部執行役員担当部長(現任) | 一株 |
| 3 | <div>新任</div> ふじ た みち とし 藤 田 通 敏 (1956年7月15日生) | 1980年4月 株式会社三菱銀行（現株式会社三菱UFJ銀行）入行 1999年10月 日本信託銀行株式会社（現三菱UFJ信託銀行株式会社）営業統括部長 2002年11月 株式会社東京三菱銀行（現株式会社三菱UFJ銀行）六本木支社長 2004年4月 同行赤坂支社長、青山通支社長 2006年5月 同行虎ノ門支社長 2008年5月 同行監査部与信監査室長 2009年9月 カブドットコム証券株式会社代表執行役員副社長 2015年8月 エム・ユー不動産調査株式会社常勤監査役（現任） | 一株 |

- (注) 1. 各候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 中村彰、藤田通敏の2氏は、社外監査役候補者であります。
3. 中村彰氏につきましては、他社における内部監査業務の実績を生かし、適切な指導及び社外監査役としての職務を遂行することができるものと判断しております。
4. 藤田通敏氏につきましては、他社における常勤監査役としての実績を生かし、適切な指導及び社外監査役としての職務を遂行することができるものと判断しております。

補欠監査役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者 番 号 | ふりがな 氏 名 (生年月日) | 略歴、地位及び重要な兼職の状況 | 所有する 当社の株式数 |
|------------|---|--|----------------|
| 4 | いち の せ よし あき 一之瀬 由明 (1942年12月6日生) | 1966年12月 税理士試験合格 1969年 9 月 公認会計士第二次試験合格 1973年 2 月 公認会計士第三次試験合格 1973年 9 月 一之瀬公認会計士事務所開設（現任） 2001年 6 月 東京税理士会品川支部支部長 2003年 7 月 公認会計士第三次試験試験委員 2005年 6 月 東京税理士会理事 2006年10月 南関東防衛局入札監視委員会委員 2010年 6 月 日本公認会計士協会東京会品川会会長 2010年 9 月 税理士法人ファースト会計事務所代表社員（現任） 2012年 8 月 南関東防衛局入札監視委員会委員長 | 一株 |

- (注) 1. 候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 一之瀬由明氏は補欠の社外監査役候補者であります。
3. 一之瀬由明氏につきましては、過去に会社経営に関与された経験はありませんが、公認会計士及び税理士としての実績を高く評価し、適切な指導及び社外監査役としての職務を遂行することができるものと判断しております。

第4号議案

取締役（社外取締役を除く。）に対する譲渡制限付株式の割当てのための報酬支給の件

当社の取締役の報酬等の額は、2006年6月29日開催の第55回定時株主総会において、年額240百万円以内（使用人兼務取締役の使用人分給与を含みません。）とご承認いただいておりますが、今般、取締役（社外取締役を除きます。以下「対象取締役」といいます。）に当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、取締役と株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、譲渡制限付株式報酬制度（以下「本制度」といいます。）を導入するものとし、上記の報酬枠とは別枠として、新たに譲渡制限付株式の割当てのための報酬を支給することにつき、ご承認をお願いいたします。

本議案に基づき、上記の目的を踏まえ相当と考えられる金額として、対象取締役にに対して支給する金銭報酬の総額は年額48百万円以内といたします。また、各対象取締役への具体的な支給時期及び配分については、取締役会において決定することといたします。

なお、現在の取締役は8名（うち社外取締役1名）ですが、第2号議案が承認可決されまると、7名（うち社外取締役1名）となります。

対象取締役は、当社の取締役会決議に基づき支給される金銭報酬債権の全部を現物出資財産として当社に給付し、当社の普通株式について発行又は処分を受けるものとします。なお、本制度により対象取締役にに対して発行又は処分される普通株式の総数は年60,000株以内（但し、本議案が承認可決された日以降、当社の普通株式の株式分割（当社普通株式の株式無償割当を含む）又は株式併合が行われた場合その他これらの場合に準じて割当てる総数の上限の調整を必要とする場合には、この総数の上限を合理的に調整できるものとします。）とし、その1株当たりの払込金額は当該普通株式の募集事項を決定する各取締役会決議の日の前営業日の東京証券取引所における普通株式の終値（同日に取引が成立していない場合は、それに先立つ直近取引日の終値）を基礎として、対象取締役に特に有利な金額にならない範囲において取締役会にて決定いたします。

また、これによる普通株式の発行又は処分に当たっては、当社と対象取締役との間で、以下の内容を含む譲渡制限付株式割当契約（以下「本割当契約」といいます。）を締結するものといたします（本割当契約により割当てを受けた普通株式を、以下「本割当株式」といいます。）。

（1）譲渡制限期間

対象取締役は、本割当株式の払込期日から30年間（以下「本譲渡制限期間」といいます。）、本割当株式について、譲渡、担保権の設定、生前贈与その他の処分をしてはならないものとします。

（2）譲渡制限の解除条件

対象取締役が本譲渡制限期間中、継続して当社の取締役の地位にあったことを条件として、本割当株式の

全部について、本譲渡制限期間が満了した時点をもって譲渡制限を解除いたします。

但し、対象取締役が、本譲渡制限期間が満了する前に、正当な理由により退任又は退職等した場合、譲渡制限を解除する本割当株式の数及び譲渡制限を解除する時期を、必要に応じて合理的に調整するものとします。

(3) 当社による無償取得

当社は、上記(2)で定める譲渡制限解除時点において、譲渡制限が解除されない本割当株式について、当然に無償で取得いたします。

(4) 組織再編等における取扱い

上記(1)の定めにかかわらず、当社は、譲渡制限期間中に、当社が消滅会社となる合併契約、当社が完全子会社となる株式交換契約又は株式移転計画その他の組織再編等に関する事項が当社の株主総会（但し、当該組織再編等に関して当社の株主総会による承認を要さない場合においては、当社の取締役会）で承認された場合には、当社の取締役会の決議により、割当日から当該組織再編等の承認日までの期間を踏まえて合理的に定める数の本割当株式について、当該組織再編等の効力発生日に先立ち、譲渡制限を解除いたします。その場合、当社は、譲渡制限が解除された直後の時点において、なお譲渡制限が解除されていない本割当株式を当然に無償で取得いたします。

(5) その他の定め

本割当契約における意思表示及び通知の方法、本割当契約改定の方法その他取締役会で定める事項を本割当契約の内容とします。

第5号議案 取締役賞与支給の件

当期末時点の取締役7名（社外取締役1名を除く）に対し、当期の業績その他の諸般の事情を勘案して、賞与総額35,000千円を支給したいと存じます。

各取締役に対する支給金額は、取締役会の決定によることにしたいと存じます。

第6号議案

当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）の継続の件

2016年6月29日開催の第65回定時株主総会決議に基づき、当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）（以下、「旧プラン」といいます。）を導入し、その有効期限は、本定時株主総会の終結の時をもって満了となります。

当社は、旧プラン導入以後の情勢の変化等も踏まえ、買収防衛策の継続の是非も含めそのあり方について検討してまいりました。その結果、株式会社の支配に関する基本方針を維持することを確認したうえで、基本方針に照らして不適切な者によって、当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みの一つとして、当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）を継続することにいたしました。（以下、変更後のプランを「本プラン」といいます。）

なお、本プランの継続にあたり、軽微な修正を施している個所がありますが、基本的な内容は旧プランと同一であり、内容に関わる大幅な変更はありません。

つきましては、本プランを決定することにつきご承認をお願いするものであります。

1. 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社の株式は、株主及び投資家の皆様による自由な取引が認められており、当社の株式に対する大量買付提案等であっても、企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するのではなく、株式会社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的に株主全体の意思に基づいて行われるべきものと考えます。

しかしながら、株式の大量買付の中には、対象となる会社の経営陣の賛同を得ることなく、一方的に大量買付提案等を強行するといったものも少なくありません。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、経営の基本理念、企業価値、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保、向上させる者でなければならないと考えております。したがって、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大量買付提案等を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

2. 基本方針の実現に資する取組み

(1) 企業価値向上のための取組み

当社は、1951年の創業以来、エレクトロニクス技術の基盤を支える電子計測器及び電源機器の専門メーカーとして、高品質な製品・サービスを提供する事に取り組み、お客様からの信頼を築き上げてきました。

電子計測器と電源機器はいずれもエレクトロニクス技術に必須の設備であり、電気、電子機器・装置の研究開発、生産が行われるあらゆる場所が当社グループの活躍するステージとなります。

また、「私たち菊水は自由で豊かな発想と行動力で“創発”し社会と共に進化します」という経営ビジョンを掲げ、技術革新に伴う製品ライフサイクルの短縮化が一段と加速される中、多様化するお客様ニーズへ柔軟に対応するために、そのニーズを的確に把握し、お客様にご満足いただける製品・サービスを提供することにより、電子計測器と電源機器のエキスパートとして、日本、そして世界のエレクトロニクス産業を支えるという、重要な役割を果たすことができると考えております。

電子計測器については、研究開発から、製造、検査、サービスに至る幅広い領域で使用される必需品です。特に近年は、特定用途に専用化した計測器の需要が高く、そのニーズに応じた製品の開発、販売に注力しています。

電源機器については、あらゆるエレクトロニクス部品や機器・装置の評価に欠かせない重要な設備装置です。近年は、直流及び交流電源と共に、評価用疑似負荷となる電子負荷装置が躍進し、「電源と電子負荷のトップブランド」として、国内外ユーザー様の支持を頂いています。

このように、当社製品は、微小な電流や電圧、高周波等の電気信号を高精度に測定するための電子計測器や、安定した直流・交流電圧を出力させる電源機器等、専門的な知識や高度な技術力が求められております。

当社は、中長期的な経営計画に取り組むことで、当社を取り巻く多くのステークホルダーの信頼に応えることを通じ、企業価値の向上をさせるべく、効率的かつ適正な企業運営を推進することで、当社の企業価値・株主の皆様の共同利益を最も向上させるものと考えております。

(2) コーポレート・ガバナンスに関する取組み

当社は、経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制と株主重視の経営体制を構築し、経営の透明性や公正性並びに迅速な意思決定の維持・向上に努めることを最重要課題と考えております。

当社の取締役会は、取締役8名(第2号議案が承認可決されますと7名)(うち社外取締役1名)で構成され、定例(毎月1回)及び臨時に開催しており、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定すると共に、業務執行の状況を逐次監督しております。

監査役会は、監査役3名(うち社外監査役2名)で構成され、定例(年4回)及び臨時に開催しており、法令で定められた事項に加え、監査役の職務執行に関する重要事項を決定しております。

当社は、経営の意思決定機能と、業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

なお、社外取締役1名を独立役員として指定しております。

また、当社は、コーポレート・ガバナンス体制強化の一環として、内部管理体制の強化を推進しており、社内における内部統制の見直しを行い、「業務の有効性及び効率性」「財務報告の信頼性」「事業活動に関わる法令等の遵守」「資産の保全」に係る改善及び合理的な運用を図るべく、今後も鋭意努力してまいります。

3. 本プラン導入の目的

このように、上記1.の基本方針に基づき、当社の企業価値及び株主共同の利益を確保・向上させるための施策を推進しておりますが、株式の大量買付の中には、対象となる会社の経営陣の賛同を得ることなく、一方的に大量買付提案等を強行するといったものも少なくありません。

もとより、株式の大量買付等であっても、企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。また、株式会社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、株式の大量買付等の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付等の行為について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買付者等の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買付者等との交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社グループは、中長期的な経営計画の下、さらなる成長に向けて取り組んでおります。その過程において、短期的に、または、投機的に株式の取得・売却をする目的での株式の大量買付者が登場することは、中長期的な成長の機会を失うのみならず、電子計測器・電源機器メーカーとしての品質に対するお客様の信用を損ね、当社グループの企業価値が大きく毀損するおそれがあります。こうした不適切な企業買収に何らの対応策も講じないまま企業経営を行う場合、目先の株価上昇を目的とした経営判断を求められかねず、中長期的な企業価値向上に集中的に取り組むことが困難な経営環境を招く可能性もあります。また、現在の当社株主構成には固定的な大株主は存在せず、当社株式は多くの株主の皆様分散して保有されておりますので、今後大量買付行為が行われる可能性も否定できないことから、予め防衛策を導入しておくことが必要不可欠と判断しております。

これらの理由から、当社グループの経営に対して重要な影響を与えることとなる、当社株式に係る株式等の保有割合を20%以上とすることを目的とした買付者等による買収行為が行われようとする場合には、株主の皆様に対する十分な情報提供がなされる機会を確保しつつ、株主共同の利益を踏まえ、買収行為の目的、内容を事前に検証する必要があると考えております。

上記1.の基本方針に照らした結果、当該買収行為が当社の株主全体の利益に反し、または当社グループの事業目的を妨げるものである場合には、これを未然に防ぎ、併せて買付者等と取締役会とが交渉を行う機会を設け当社グループの企業価値をより向上させるため、買付者等及び当社取締役会に対して事業計画の提案等をさせることを目的として、本プランの導入を決定いたしました。

4. 本プランの内容

(1) 本プランの対象となる当社株式の買付について

次の①または②に該当する買付がなされる場合、原則として、本プランに定める手続に従い、本プランは開始されます。

但し、①または②に該当する場合でも、当社取締役会が書面で同意した場合には、この限りではありません。(以下、①または②に該当する買付を行った者(当社取締役会が書面で同意したことにより本プランの対象にならない買付を行った者を除く。)を「買付者等」という。)

- ① 当社が発行者である株式等(*1)について保有者(*2)の株式等保有割合(*3)の合計が20%以上となる買付
- ② 当社が発行者である株式等(*4)について、公開買付(*5)に係る株式等の株式等所有割合(*6)、及びその特別関係者(*7)の株式等所有割合の合計が20%以上となる公開買付
 - (*1) 金融商品取引法第27条の23第1項に規定される「株券等」を意味するものとします。以下同様です。
 - (*2) 金融商品取引法第27条の23第3項で保有者とみなされる者を含み、以下同様です。
 - (*3) 金融商品取引法第27条の23第4項の「株券等保有割合」で、以下同様です。
 - (*4) 金融商品取引法第27条の2第1項の「株券等」で、以下②では同様です。
 - (*5) 金融商品取引法第27条の2第6項の「公開買付」で、以下同様です。
 - (*6) 金融商品取引法第27条の2第8項の「株券等所有割合」で、以下同様です。
 - (*7) 金融商品取引法第27条の2第7項の「特別関係者」(同項第1号に掲げる者については、「発行者以外の者による株券等の公開買付の開示に関する内閣府令」第3条第2項で定める者を除く。)で、以下同様です。

(2) 買付者等による当社に対する情報提供

上記(1)①または②の買付を行う買付者等には、当社取締役会が別段の定めをした場合を除き、買収行為の実行に先立ち、当社に対して、次の①～⑨に定める情報、資料及び書面（以下、総称して「必要情報」という。）を日本語で提供していただきます。独立委員会は、当初提出いただいた情報のみでは不十分であると判断した場合には、その意向表明書を受領した日から5営業日以内に、必要情報を追加的に提供するように求めることがあります。

なお、買付者等は、独立委員会の指定した合理的期間内に必要情報を追加提供できない場合、独立委員会に対し、必要情報の提出期限の延長を申し出ることができます。

- ① 買付者等及びそのグループ（共同保有者、特別関係者、株主、組合員その他の構成員等）の名称、本店所在地、資本構成、事業内容、経歴または沿革、財務内容、当社グループの事業と同種の事業についての経験等
- ② 買収の目的、方法及び内容（買収対価の種類及び価額、買収の時期、買収及びこれに関連するスキームの概要等）
- ③ 買収の対価の算定根拠（算定方法、算定に用いた数値情報等）
- ④ 買収資金の調達方法（買収資金の提供者がいる場合には、その名称、調達方法、担保提供の有無、内容等）
- ⑤ 買収後の当社グループの経営方針、資本政策、配当政策及び事業計画
- ⑥ 買収後における当社の従業員、取引先、顧客その他当社の利害関係者の処遇
- ⑦ 買収に際しての、第三者との間における意思連絡の有無、及び意思連絡が存在する場合にはその内容
- ⑧ 反社会的勢力との関連性の有無(直接・間接を問いません。)及びこれらに対する対処方針
- ⑨ その他独立委員会が合理的に必要と判断する情報及び資料

(3) 独立委員会の検討手続

独立委員会は、買付者等から必要かつ十分な必要書類の提出がなされた後、当社取締役会に対して、独立委員会が定める合理的期間内に、次の①～③に定める情報その他の関連資料の提出を求めるものとします。独立委員会は、当社取締役会による当該資料等の提供が不十分であると判断した場合には、当社取締役会に対して、追加情報の提供を求めることができます。

但し、当社取締役会は、独立委員会の指定した期間内に独立委員会が提出を求めた資料等の提出ができない場合、独立委員会に対し、当該資料等の提出期限の延長を申し出ることができるものとします。この場合、独立委員会は、必要かつ合理的な範囲内において、当該提出期限を延長することができます。

- ① 買収提案に対する意見及び根拠となる資料等
- ② 当社取締役会による経営方針、資本政策、配当政策及び事業計画

③ その他独立委員会が合理的に必要と判断する情報及び資料

(4) 買収行為等の検討・評価及び交渉期間の確保

当社は、買付者等及び当社取締役会が独立委員会に対して必要情報等の提供を完了した後、次の期間を独立委員会における検討、評価、交渉、意見及び代替案立案のための期間（以下、「検討期間」という。）として確保されるべきものと考えております。

① 買収条件が、対価を円貨の現金のみとする発行済株式数の全てを公開買付による場合

60日営業日

② その他の場合

90日営業日

独立委員会は、検討期間中、提供された必要情報を十分に検討・評価し、独立委員会としての意見を慎重に取りまとめ、本プランの発動または不発動を当社取締役会に対して勧告します。その際独立委員会は、当社の費用で独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を得ることができるものとします。

なお、独立委員会は、必要に応じて、買付者等及び当社取締役会に対して協議を行うよう要請し、または当社の重要な取引先及び従業員に対して、買付者等及び当社取締役会が提示する事業計画等についての意見を求めることがあります。

さらに、独立委員会は、必要に応じて、買付者等または当社取締役会と協議を行い、買付者等及び当社取締役会に対して、提示した買収提案、事業計画等の変更または代替案の提示を求めることがあります。

独立委員会が、検討期間内にプランの発動または不発動の判断を行うに至らない場合には、合理的な範囲（原則として30日を上限とします。）で、検討期間を延長することができます。なお、独立委員会は、検討期間中に買付者等が提示した買収提案の修正案が当初の買収提案よりも当社にとって実質的に不利益であると判断したときには、別途当該修正案の提出日の翌日から上記の区分に対応した期間において、当該修正案の検討等を行うことができるものとします。

(5) 本プランの発動・不発動の勧告に関する判断手続及び判断基準

① 独立委員会による買収防衛策を発動する旨の勧告

独立委員会は、買付者等が上記（2）に定める情報提供あるいは検討期間の確保その他本プランに定める手続を遵守しなかった場合、または、買付者等及び当社取締役会から提供された情報・資料の評価・検討の結果あるいは買付者等との協議・交渉の結果、次の（a）から（f）に該当する場合その他、買付者等による買付が企業価値または当社株主の皆様の共同利益に対する侵害・毀損をもたらすおそれのある買付であると認められる場合（侵害・毀損をもたらすおそれと本プランの買収防衛策の発動

による影響とを比較考量して、買収防衛策を発動することが相当であると認められる場合に限りま。

す。)

には、検討期間の満了日までに、当該買付が不適切な買付に該当するとして、当社取締役会に対して、本プランの発動を勧告します。

【買収防衛策の発動を勧告する場合の要件】

- (a) 真に会社経営に参加する意思がないにもかかわらず、ただ株価をつり上げて高値で株式を会社関係者に引き取らせる目的で株式の買収を行っている場合（いわゆるグリーンメイラーである場合）
- (b) 会社経営を一時的に支配して当該会社の事業経営上必要な知的財産権、ノウハウ、企業秘密情報、主要取引先や顧客等を当該買付者等やそのグループ会社等に移譲させるなど、いわゆる焦土化経営を行う目的で株式の買収を行っている場合
- (c) 会社経営を支配した後に、当該会社の資産を当該買付者等やそのグループ会社等の債務の担保や弁済原資として流用する予定で株式の買収を行っている場合
- (d) 会社経営を一時的に支配して当該会社の事業に当面関係していない不動産、有価証券など高額資産等を売却等処分させ、その処分利益をもって一時的な高配当をさせるかあるいは一時的な高配当による株価の急上昇の機会を狙って株式の高値売り抜けをする目的で株式の買収を行っている場合
- (e) 最初の買付で全株式の買付を勧誘することなく、二段階目の買付条件を不利に設定し、あるいは明確にしないで、公開買付等の株式の買付を行う場合（いわゆる強圧的二段階買収である場合）
- (f) 買付者等が真摯に合理的な経営を目指すものではなく、買付者等による支配権取得が会社に回復し難い損害をもたらすことが明らかな場合

② 買収防衛策の発動後の中止

独立委員会が買収防衛策の発動を勧告し、当社取締役会が買収防衛策を発動した後であっても、次の

(a) または (b) の事由が認められる場合、独立委員会は、当社取締役会に対し、買収防衛策の発動を中止する旨の勧告を行うことができます。

- (a) 買付者等が買付を撤回した場合、その他買付等の状況が解消された場合
- (b) 上記①の発動勧告の前提となった事実関係等に変動が生じ、買付者等による買付が上記①に定める要件のいずれにも該当しないと判断するに至った場合

③ 当社取締役会の決議

当社取締役会は、上記①による独立委員会の勧告を最大限尊重し、本プランの発動または不発動を最終的に決定いたします。

当社取締役会は、かかる決定を行った場合、当該決定の概要その他当社取締役会が適切と認める事項について、決定後速やかに、情報開示を行います。

(6) 本プランの具体的内容

上記（５）③により、当社取締役会が不適切な買付に対抗するための具体的方策は、会社法第277条に基づき、別紙１にその概要を記載する新株予約権（以下、「本新株予約権」という。）の株主無償割当の方法によります。

(7) 本新株予約権の割当中止

上記のとおり、独立委員会が、上記（５）②の事由が認められるとして、当社取締役会に対し、本新株予約権の無償割当を中止する旨の勧告を行うことができる期限は、本新株予約権の割当基準日から起算して6営業日前までとし、また、当社取締役会が独立委員会からの中止勧告に基づいて本新株予約権の無償割当を中止することができる期限は、本新株予約権の割当基準日から起算して5営業日前までとさせていただきます。

(8) 本プランの継続手続き

本プランの継続にあたり、2019年6月27日に開催予定の当社定時株主総会に付議し、その承認を条件として継続いたします。

(9) 本プランの有効期間

本プランの有効期間は、2019年6月27日に開催予定の当社定時株主総会における継続決議の時から、3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとします。

但し、2019年6月に開催予定の当社定時株主総会において、本プランの継続に関する議案が否決された場合には、本プランは継続されません。

(10) 本プランの廃止及び修正・変更等

有効期間の満了前であっても、次のいずれかに該当する場合には、本プランはその時点で廃止されるものとします。

- ① 当社の株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合
- ② 当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合

また、当社取締役会は、本プランの有効期間中であっても、本プラン導入の承認に係る株主総会決議の趣旨に反しない範囲内で、独立委員会の承認を得た上で、本プランを修正・変更する場合があります。

当社は、本プランが廃止または修正・変更された場合には、その内容につき速やかに情報開示を行います。

5. 本プランの合理性

(1) 買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が2005年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を充足しており、また、経済産業省に設置された企業価値研究会が2008年6月30日に公表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」、株式会社東京証券取引所の「有価証券上場規程第440条（買収防衛策の導入に係る遵守事項）」の遵守事項を充足しております。

(2) 株主意思を重視するものであること

当社は、本取締役会において、本プランの継続を決定いたしました。上記4.（9）「本プランの有効期間」及び4.（10）「本プランの廃止及び修正・変更等」に記載したとおり、本プランは株主総会の承認を条件に継続することとしており、かつその有効期間の満了前であっても、当社株主総会において、本プランの変更または廃止の決議がなされた場合には、当該決議に従うよう速やかに変更または廃止されることになっているため、本プランは当社株主の合理的意思に依拠したものとなっております。

なお、上記4.（9）に記載のとおり、当社は、2019年6月27日に開催予定の定時株主総会において、本プランに関する株主の皆様のご意思をご確認させて頂くため、本プランについて株主の皆様にご提案としてお諮りする予定です。

(3) 独立性の高い社外者の判断の重視

当社は、本プランの継続にあたり、当社取締役会の恣意的判断を排するため、独立委員会規程（その概要については別紙2ご参照）に従い、株主の皆様のために本プランの発動等の運用に際しての実質的な判断を客観的に行う機関として、独立委員会を設置しました。

独立委員会は、当社の業務執行を行う経営陣から独立している委員3名以上により構成されます。

買付者等による買付がなされた場合には、上記4.（5）「本プランの発動・不発動の勧告に関する判断手続及び判断基準」にて記載したとおり、独立委員会が買収防衛策の発動を勧告する場合の要件に従い、当該買付が当社の企業価値・株主共同の利益を毀損するか否か等実質的な判断を行い、当社取締役会はその判断を最大限尊重して会社法上の機関としての決議を行うこととします。

このように、独立委員会によって、当社取締役会が恣意的に本プランの発動等の運用を行うことのないよう、厳しく監視すると共に、当社の企業価値・株主共同の利益に適うように本プランの透明な運営が行われる仕組みが確保されています。

(4) 合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、上記4.(5)「本プランの発動・不発動の勧告に関する判断手続及び判断基準」にて記載したとおり、予め定められた合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しているものといえます。

(5) 第三者専門家の意見の取得

上記4.(4)「買収行為等の検討・評価及び交渉期間の確保」にて記載したとおり、買付者等が出現すると、独立委員会は、当社の費用で、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を得ることができることとされています。これにより、独立委員会による判断の公正性・客観性がより強く担保される仕組みとなっています。

(6) デッドハンド型買収防衛策やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により廃止することができるものとされており、買付者等が、当社株主総会で取締役を指名し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。

従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

また、当社は取締役8名(第2号議案が承認可決されますと7名)中2名の期差任期制を採用しておりますが、取締役会の構成員の交替を一度に行うことができるため、スローハンド型買収防衛策に該当しません。

6. 株主の皆様への影響

(1) 本プランの継続時に株主の皆様にご与える影響

本プランの継続時点においては、本新株予約権の無償割当自体は行われませんので、株主及び投資家の皆様の権利・利益に直接具体的な影響が生じることはありません。

(2) 本新株予約権の無償割当により株主の皆様にご与える影響等

① 本新株予約権の無償割当の手続及び名義書換手続

当社取締役会において、本新株予約権無償割当決議を行った場合には、当社は、当該決議において割当期日を定め、これを公告いたします。この場合、割当期日における最終の株主名簿に登録された株主の皆様に対し、その保有する当社株式1株につき本新株予約権1個の割合で、本新株予約権が無償にて割当てられます。

割当対象株主の皆様におかれましては、当該本新株予約権の無償割当の効力発生日において、当然に本新株予約権に係る新株予約権者となるため、申込の手続等は不要です。

なお、一旦本新株予約権無償割当決議がなされた場合であっても、当社は、上記4.(5)①「独立委員会による買収防衛策を発動する旨の勧告」に記載した独立委員会の勧告を最大限尊重して、本新株予約権の無償割当の効力発生日までに本新株予約権の無償割当を中止し、または本新株予約権の無償割当の効力発生日後、本新株予約権の行使期間の初日の前日までに本新株予約権を無償にて取得する場合があります。これらの場合には、1株当たりの株式の価値の希薄化が生じることを前提にして当社株式の売買を行った投資家の皆様は、その価格の変動により相応の影響を受ける可能性があります。

② 本新株予約権の行使の手続

当社は、割当対象株主の皆様に対し、原則として、本新株予約権の行使請求書（行使に係る本新株予約権の内容及び数、本新株予約権を行使する日等の必要事項、並びに株主ご自身が本新株予約権の行使条件を充足すること等についての表明保証条項、補償条項その他の誓約文言を含む当社所定の書式によるものとします。）、その他本新株予約権の行使に必要な書類を送付いたします。本新株予約権の無償割当後、株主の皆様においては、本新株予約権の行使期間内に、これらの必要書類を提出した上、本新株予約権1個当たり1円を払込取扱場所に払い込むことにより、1個の本新株予約権につき、原則として1株の当社株式が発行されることとなります。

仮に、株主の皆様が、こうした本新株予約権の行使及び行使価額相当の金銭の払込を行わなければ、他の株主の皆様による本新株予約権の行使により、その保有する当社株式が希薄化することとなります。

但し、当社は、下記③に記載するところに従って買付者等以外の株主の皆様から本新株予約権を取得し、それと引換えに当社株式を交付することがあります。当社がかかる取得手続を取った場合、特定買付者等以外の株主の皆様は、本新株予約権の行使及び行使価額相当の金銭の払込をせずに当社株式を受領す

ることとなり、その保有する当社株式の希薄化は原則として生じません。

③ 当社による本新株予約権の取得の手続

当社は、当社取締役会が本新株予約権を取得する旨の決定をした場合、法定の手続に従い、当社取締役会が別に定める日において、買付者等以外の株主の皆様から本新株予約権を取得し、これと引換えに当社株式をかかる株主の皆様へ交付することがあります。この場合、かかる株主の皆様は、行使価額相当の金銭を払い込むことなく、当社による当該本新株予約権の取得の対価として、1個の本新株予約権につき原則として1株の当社株式を受領することになります。なお、この場合、かかる株主の皆様には、別途、ご自身で買付者等でないこと等についての表明保証条項、補償条項その他の誓約文言を含む当社所定の書式による誓約書をご提出頂くことがあります。

上記のほか、本新株予約権の割当方法、行使の方法及び当社による取得の方法の詳細につきましては、本新株予約権の無償割当決議が行われた後、株主の皆様に対して公表または通知いたしますので、当該内容をご確認下さい。

以 上

【別紙 1】

発行予定の新株予約権の概要

1. 新株予約権付与の対象となる株主及びその発行条件

取締役会で定める割当期日における最終の株主名簿に記録された株主に対し、その所有株式（当社保有の株式を除く。）1株につき1個の割合で新株予約権を割当てる。

2. 新株予約権の目的となる株式の種類及び数

新株予約権の目的となる株式の種類は当社普通株式とし、新株予約権1個当たりの目的となる株式の数は1株とする。

3. 発行する新株予約権の総数

新株予約権の割当総数は、新株予約権無償割当期日における当社最終の発行可能株式総数（当社保有の株式の数を除く。）を上限とし、取締役会が定める数とする。取締役会は、割当総数がこの上限を超えない範囲で複数回にわたり新株予約権の割当を行うことができる。

4. 新株予約権の発行価額

無償とする。

5. 新株予約権の行使に際して出資される財産及びその価額

各新株予約権の行使に際して出資される財産は金銭とし、その価額は、1株当たり1円とする。

6. 新株予約権の譲渡制限

新株予約権の譲渡に関しては、取締役会の承認を要する。

7. 新株予約権の行使期間

新株予約権無償割当決議において当社取締役会が定める期間とする。

8. 新株予約権の行使に際して出資される金銭払込取扱場所

新株予約権無償割当決議において当社取締役会が定めるものとする。

9. 新株予約権証券の不発行

新株予約権証券は、発行しないものとする。

10. 新株予約権の行使条件等の諸条件

新株予約権の行使条件、消却条件その他必要な事項については、取締役会にて別途定めるものとする。

11. 法令の改正等による修正

法令の新設、改廃または施行等により、上記各項に定める条項等に修正を加える必要が生じた場合、その他取締役会により必要と判断された場合には、上記各項に定める条項を適宜合理的な範囲内で読み替えるものとする。

以 上

【別紙2】

独立委員会規程の概要

1. 独立委員会は当社取締役会の決議により設置される。
2. 独立委員会の委員は、3名以上とし、当社の業務執行を行う経営陣から独立している、(i)当社社外取締役、(ii)当社社外監査役、または(iii)社外の有識者のいずれかに該当する者の中から、当社取締役会が選任する。但し、社外の有識者は、実績ある会社経営者、官庁出身者、投資銀行業務に精通する者、弁護士、公認会計士もしくは学識経験者またはこれらに準ずる者でなければならない。
3. 独立委員会委員の任期は、選任後3年以内に終了する事業年度に係る定時株主総会の終結の時までとする。但し、当社取締役会の決議により別段の定めをした場合はこの限りでない。
4. 独立委員会は、以下の各号に記載される事項について決定し、その決定の内容を、その理由を付して当社取締役会に対して勧告する。当社取締役会は、この独立委員会の勧告を最大限尊重して、新株予約権無償割当ての実施または不実施等に関する会社法上の機関としての決議を行う。なお、独立委員会の各委員及び当社各取締役は、こうした決定にあたっては、当社の利益に資するか否かの観点からこれを行うことを要し、専ら自己または当社の経営陣の個人的利益を図ることを目的としてはならない。
 - ① 本新株予約権の無償割当ての実施または不実施
 - ② 本新株予約権の無償割当ての中止または本新株予約権の無償取得
 - ③ その他当社取締役会が判断すべき事項のうち、当社取締役会が独立委員会に諮問した事項
5. 上記に定めるところに加え、独立委員会は、以下の各号に記載される事項を行う。
 - ① 本プランの対象となる買付等への該当性の判断
 - ② 買付者等及び当社取締役会が独立委員会に提供すべき情報及びその回答期限の決定
 - ③ 独立委員会検討期間の設定及び延長
 - ④ 買付者等の買付等の内容の精査・検討
 - ⑤ 当社取締役会を通じた買付者等との交渉・協議
 - ⑥ 代替案の提出の要求・代替案の検討・提示
 - ⑦ 本プランの修正または変更に係る承認
 - ⑧ その他本プランにおいて独立委員会が行うことができると定められた事項
 - ⑨ 当社取締役会が、別途独立委員会が行うことができるものと定めた事項

6. 独立委員会は、買付者等に対し、買付説明書の記載内容が本必要情報として不十分であると判断した場合には、本必要情報を追加的に提出するよう求める。また、独立委員会は、買付者等から買付説明書及び独立委員会から追加提出を求められた本必要情報が提出された場合、当社取締役会に対しても、所定の合理的な期間内に、買付者等の買付等の内容に対する意見及びその根拠資料、代替案（もしあれば）その他独立委員会が適宜必要と認める情報・資料等を提示するよう要求することができる。
7. 独立委員会は、必要があれば、当社取締役会等を通じて、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上という観点から買付者等の買付等の内容を改善させるために、買付者等と協議・交渉を行うものとし、また、株主に対する代替案の提示を行うものとする。
8. 独立委員会は、必要な情報収集を行うため、当社の取締役、監査役、従業員その他独立委員会が必要と認める者の出席を要求し、独立委員会が求める事項に関する説明を求めることができる。
9. 独立委員会は、当社の費用で、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含む。）の助言を得ること等ができる。
10. 各独立委員会委員は、買付等がなされた場合その他、いつでも独立委員会を招集することができる。
11. 独立委員会の決議は、原則として、独立委員会の委員全員が出席し、その過半数をもってこれを行う。但し、委員に事故あるときその他やむを得ない事由があるときは、独立委員会委員の過半数が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行うことができる。

以 上

【別紙 3】

独立委員会委員の氏名及び略歴

吉澤 英三(よしざわ えいぞう)

略歴： 1963年 4月 東京国税局入局
1992年 7月 江戸川税務署副署長
1994年 7月 東京国税局調査第一部特別国税調査官
1995年 7月 東京国税局徴収部統括国税徴収官
1996年 7月 東京国税局総務部人事調査官
1998年 7月 東京国税局総務部考査課長
1999年 7月 東京国税局総務部人事第一課長
2001年 7月 国税庁長官官房厚生課長
2002年 7月 国税庁長官官房総務課監督評価官室長
2003年 7月 金沢国税局長
2004年 8月 税理士登録（現任）
2007年 6月 当社監査役
2015年 6月 当社取締役（現任）

中村 彰(なかむら あきら)

略歴： 1979年 4月 株式会社第一勧業銀行(現株式会社みずほ銀行)入行
2003年 3月 同行横須賀支店支店長
2005年 4月 同行業務監査部監査主任
2007年 2月 同行本店付参事役
2007年 4月 株式会社ぎょうせい業務監査室室長
2008年 9月 同社営業部部長
2009年 9月 同社クリエイティブ事業部部長
2011年 5月 中央ビルマネジメント株式会社ビル管理第一部長
2013年 2月 中央不動産株式会社総務部長
2014年 6月 同社執行役員総務部長
2019年 2月 同社内部監査部執行役員担当部長（現任）

藤田 通敏(ふじた みちとし)

略歴： 1980年 4月 株式会社三菱銀行(現株式会社三菱UFJ銀行)入行
1999年10月 日本信託銀行株式会社(現三菱UFJ信託銀行株式会社)営業統括部長
2002年11月 株式会社東京三菱銀行（現株式会社三菱UFJ銀行）六本木支社長
2004年 4月 同行赤坂支社長、青山通支社長
2006年 5月 同行虎ノ門支社長
2008年 5月 同行監査部与信監査室長
2009年 9月 カブドットコム証券株式会社代表執行役副社長
2015年 8月 エム・ユー不動産調査株式会社常勤監査役（現任）

以 上

【別紙４】

当社株式の保有状況の概要（2019年３月31日現在）

- １．発行可能株式総数 30,000,000株
- ２．発行済株式の総数 9,900,000株
- ３．株主数 2,781名
- ４．大株主

| 順位 | 株主名 | 株数（株） | 持株比率（％） |
|----|--------------|---------|---------|
| １ | 株式会社ケーティーエム | 909,200 | 11.03 |
| ２ | 菊水取引先持株会 | 884,200 | 10.72 |
| ３ | 菊水電子工業従業員持株会 | 441,340 | 5.35 |
| ４ | 株式会社みずほ銀行 | 360,000 | 4.37 |
| ５ | 小林寛子 | 346,800 | 4.21 |
| ６ | 日本生命保険相互会社 | 301,000 | 3.65 |
| ７ | ケル株式会社 | 220,000 | 2.67 |
| ８ | 株式会社三菱ＵＦＪ銀行 | 214,500 | 2.60 |
| ９ | 橋本幸雄 | 188,000 | 2.28 |
| １０ | 三井住友信託銀行株式会社 | 183,000 | 2.22 |

※１．上記のほか、当社が保有しております自己株式1,654,750株があります。

※２．持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数（8,245,250株）を基準に算出し、小数点以下第３位を四捨五入して表示しております。

以 上

I. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度における我が国経済は、相次ぐ自然災害や海外情勢の不確実性による経済に与える影響が見られるものの、企業収益や雇用・所得環境の改善と個人消費が持ち直すなど、緩やかな景気回復基調が続いております。

また、海外経済においても同様に景気は緩やかに回復しておりますが、米中貿易摩擦の激化リスクや英国のEU離脱問題等により先行き不透明な状況で推移いたしました。

一方、当社グループが属する電気計測器業界においては、当社グループの重点市場である次世代自動車関連市場では、EV（電気自動車）や先進安全自動車及びこれらに関わる市場からの電気計測器の需要は増加傾向にありました。また冷凍空調市場では、省エネ対策だけではなくAI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）を活用したシステムの省力化・自動化等高付加価値化への取り組みに対する設備投資は堅調であり、製造業全般では、設備投資の動きは緩やかに回復しております。

このような状況の中、当社グループは、米中貿易摩擦の影響があったものの、次世代自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に顧客ニーズに合わせたシステム提案営業を積極的に展開し、また、販路開拓活動と研究開発活動を行うと共に、原価低減と経費節減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、新製品の投入効果や特に第4四半期に汎用性の高い直流電源、交流電源や安全関連試験機器等の売上が伸びたことにより、89億1千7百万円(前年同期比12.2%増)となりました。

損益面におきましては、売上高の増加により、営業利益6億9千6百万円(前年同期比44.6%増)、経常利益7億1百万円(前年同期比43.8%増)となり、また、当社製品の無償保証修理に伴う製品保証引当金繰入額の特別損失への計上及び法人税等調整額1億6千1百万円を計上いたしましたが、親会社株主に帰属する当期純利益は4億4千3百万円(前年同期比31.0%増)となりました。

製品群別概況

電子計測器群

売上高

20億2千万円
(前年同期比 22.4%増)

電子計測器群では、前期低調だった航空機用電子機器の測定器が好調に推移いたしました。また、安全関連試験機器は、耐電圧・絶縁抵抗試験用として車載関連市場においては好調に推移し、家電関連市場においても動きがありました。

以上の結果、売上高は20億2千万円(前年同期比22.4%増)となりました。

電源機器群

売上高

65億5千9百万円
(前年同期比 9.4%増)

電源機器群では、直流電源は、次世代自動車関連市場への試験用供給電源として、また、半導体関連市場への装置駆動用電源として好調に推移いたしました。交流電源は、小型大容量の新製品であるP C R－W E／W E 2の販売効果もあり、車載関連市場や冷凍空調市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。電子負荷装置は、車載関連市場及びエネルギー関連市場への評価試験用として高電圧大容量の新製品P L Z－5 W Hを中心に好調に推移いたしました。また、車載電池用充電システム等特注製品に動きがありました。

以上の結果、売上高は65億5千9百万円(前年同期比9.4%増)となりました。

サービス・部品等

売上高

3億3千7百万円
(前年同期比 10.6%増)

サービス・部品等につきましては、特記すべき事項はありません。

当該サービス・部品等の売上高は、3億3千7百万円(前年同期比10.6%増)となりました。

■ 海外市場概況

売上高

23億9千万円
(前年同期比 0.5%増)

「電子計測器群」、「電源機器群」、「サービス・部品等」の売上高に含まれております。

米国では、I T 関連市場や宇宙産業市場への直流電源が好調に推移いたしました。欧州では、車載関連市場や電子部品市場向けの直流電源や電子負荷装置に動きが見られました。

アジアにおいては、中国では、米中貿易摩擦の影響があったものの、EV用電池市場への安全関連試験機器や車載関連市場向けの直流電源が好調に推移いたしました。韓国では、車載関連市場への交流電源や電子負荷装置、また、東南アジアでは日系企業を中心に家電関連市場や電子部品関連市場への安全関連試験機器や直流電源にそれぞれ動きが見られました。

以上の結果、海外売上高は23億9千万円(前年同期比0.5%増)となりました。

(2) 設備投資及び資金調達の状況

当連結会計年度の主な設備投資は、技術開発拠点である菊水創発センター改修工事及び研究開発用設備、製品検査用測定器、製品開発用ソフトウェア等であり、設備投資総額は4億5千9百万円であります。

また、当連結会計年度中には、社債又は新株式の発行等による資金調達は行っておりません。

(3) 財産及び損益の状況

① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分 | 第65期 2016年3月期 | 第66期 2017年3月期 | 第67期 2018年3月期 | 第68期 2019年3月期 |
|-----------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 売上高 (百万円) | 7,966 | 7,736 | 7,950 | 8,917 |
| 経常利益 (百万円) | 643 | 468 | 487 | 701 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円) | 455 | 334 | 338 | 443 |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 53.79 | 39.79 | 40.59 | 53.52 |
| 総資産 (百万円) | 11,187 | 11,180 | 11,605 | 11,759 |
| 純資産 (百万円) | 8,957 | 9,017 | 9,455 | 9,404 |
| 1株当たり純資産 (円) | 1,058.34 | 1,074.36 | 1,131.11 | 1,140.62 |

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。
2. 第65期 環境・エネルギー関連市場、自動車関連市場及び冷凍空調市場を中心に積極的な営業活動と研究開発活動を推進したことにより、売上高は前期比増となりました。一方で、利益面では、海外売上高の増加に伴い販売促進費用、運送費用並びに研究開発費等の販売費及び一般管理費が増加したことにより、営業利益、経常利益は前期比減となりましたが、税制改正による実効税率の引き下げに伴う税金費用の減少や法人税等還付税額の計上により、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比増となりました。
3. 第66期 環境・エネルギー関連市場、自動車関連市場及び冷凍空調市場を中心に積極的な営業活動と研究開発活動を推進してまいりました。しかしながら、売上高は製造業全般で設備投資が抑制されたこと等により前期比減となり、また、利益面につきましても営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比減となりました。
4. 第67期 自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に積極的な営業活動や販路開拓活動と研究開発活動を行った結果、売上高は、海外市場での売上高が増加したこと等により前期比増となりました。利益面では、研究開発費の増加や本社移転、技術開発拠点である菊水創発センターの改修工事等に伴う費用の計上などによる販売費及び一般管理費が増加したことにより営業利益は前期比減となりましたが、為替差損の減少等により経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比増となりました。
5. 第68期（当連結会計年度） 前記「(1) 事業の経過及びその成果」に記載のとおりであります。
6. 「『税効果会計に係る会計基準』等の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を第68期の期首から適用しており、第67期については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

② 事業報告作成会社の財産及び損益の状況

| 区 分 | 第65期 2016年3月期 | 第66期 2017年3月期 | 第67期 2018年3月期 | 第68期 2019年3月期 |
|----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 売上高 (百万円) | 7,565 | 7,542 | 7,550 | 8,592 |
| 経常利益 (百万円) | 597 | 579 | 398 | 717 |
| 当期純利益 (百万円) | 424 | 448 | 248 | 462 |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 50.13 | 53.38 | 29.78 | 55.81 |
| 総資産 (百万円) | 10,819 | 10,940 | 11,276 | 11,499 |
| 純資産 (百万円) | 8,611 | 8,839 | 9,169 | 9,180 |
| 1株当たり純資産 (円) | 1,021.48 | 1,057.57 | 1,101.39 | 1,113.38 |

(注) 1. 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。

2. 「『税効果会計に係る会計基準』等の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を第68期の期首から適用しており、第67期については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。

(4) 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、景気は引き続き緩やかな回復基調が続くと期待されますが、深刻な人手不足の影響、長引く米中貿易摩擦への懸念、地政学的リスク等海外情勢の先行きへの慎重姿勢などにより、当社グループを取り巻く経営環境は依然として不透明感が続くものと推測しております。

このような状況のもと、当社グループが継続的に発展していくために、「私たち菊水は自由で豊かな発想と行動力で“創発”し社会と共に進化します」という経営ビジョンを掲げ、効率的な経営資源の投入と、「グローバル」「ソリューション」「事業領域拡大」の実践を盛り込んだ経営計画に沿って、以下の施策を実施してまいります。

- ① 技術革新に伴う製品ライフサイクルの短縮化が一段と加速される市場環境の中で多様化するお客様のニーズや課題に対応すべく、提案型営業体制の構築を進めると共に、新製品開発と原価低減に引き続き努めてまいります。
- ② 汎用電源・安全関連試験機器市場では、市場の成熟化に加え、新興国企業の台頭等による価格競争が激化しつつある中、製品の差別化やグローバルな視点から生産拠点及び開発設計拠点の最適化を図ることにより、製品競争力の強化に努めてまいります。

- ③ 国内営業活動では、今後の成長が期待される次世代自動車関連市場と環境・エネルギー関連市場を重点市場として、E V（電気自動車）用の車載電装品や電子部品、分散型エネルギー機器、蓄電池システムの研究開発や品質評価の分野に、顧客ニーズに合わせたソリューション営業を積極的に展開してまいります。
- ④ 海外営業活動では、次世代自動車関連市場と5 Gサービスの普及によって投資活動が予測される情報通信機器市場を重点市場として、W E Bサイトを活用したブランドの強化と現地系企業への販路拡大で、海外販売体制の強化を進めてまいります。
- ⑤ 複雑化する経営環境の中で、戦略的かつ積極的に経営資源を投入し、効率的で健全な企業経営を目指すことに努めております。さらに、I R活動の推進に努めて、当社グループの企業価値向上に取り組むと共に、積極的な情報開示で透明性の高い経営にも注力してまいります。
- ⑥ お客様満足に向けた品質の確保はもとより、「環境指向による企業価値の向上」を堅持し、設計から部品調達、製造、販売、サービス、廃棄までの全てのステージで環境影響を考慮した事業活動を展開し、全てのステークホルダーの皆様に安心・安全を提供いたします。

以上により、経営基盤の強化充実と業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ、今後とも格段のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(5) 主要な事業内容

当社グループは、電気計測器等の製造、販売を主な事業としており、各製品群の主要な製品は、次のとおりであります。

| 製品群 | 主要製品 |
|-----------|---|
| 電 子 計 測 器 | 耐電圧試験器、耐電圧・絶縁抵抗試験器、デジタル標準信号発生器、標準信号発生器、移動体通信機用試験器、RFパワーメータ、静電気放電シミュレータ、サージシミュレータ、FCインピーダンスメータ |
| 電 源 機 器 | 直流安定化電源、交流安定化電源、電子負荷装置、充放電バッテリーテスト、電源高調波電流測定器、機器組込用電源、可搬型EV急速充電器 |

(6) 主要な営業所及び工場の状況 (2019年3月31日現在)

① 主要な事業所及び営業所

本 店：神奈川県横浜市都筑区東山田一丁目1番3号

本 社：神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央6番1号 サウスウッド4階

事業所：菊水創発センター（神奈川県横浜市都筑区東山田）

富士勝山事業所（山梨県南都留郡富士河口湖町）

営業所：首都圏営業所（横浜市） 東北営業所（仙台市） 北関東営業所（さいたま市）

東海営業所（名古屋市） 関西営業所（吹田市） 九州出張所（福岡市）

② 子会社の事業所

フジテック株式会社：山梨県南都留郡富士河口湖町

菊水貿易（上海）有限公司：中国上海市

KIKUSUI AMERICA, INC.：米国カリフォルニア州トーランス市

(7) 使用人の状況 (2019年3月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

| 区 分 | 使用人数 | 前期末比増減 |
|-------------------|------|--------|
| 研 究 開 発 関 連 部 門 | 86名 | 7名増 |
| 生 産 ・ 購 買 関 連 部 門 | 75名 | 8名減 |
| 営 業 関 連 部 門 | 103名 | 1名増 |
| 管 理 部 門 | 28名 | 1名減 |
| 合 計 | 292名 | 1名減 |

(注) 使用人数は就業人員であります。

② 当社の使用人の状況

| 区 分 | 使用人数 (前期末比増減) | 平均年齢 | 平均勤続年数 |
|---------|---------------|-------|--------|
| 男 性 | 225名 (3名増) | 41.8歳 | 16.1年 |
| 女 性 | 36名 (3名減) | 39.9歳 | 15.6年 |
| 合計または平均 | 261名 (-) | 41.6歳 | 16.1年 |

(注) 使用人数は就業人員であります。

(8) 重要な子会社の状況 (2019年3月31日現在)

① 重要な子会社の状況

| 会社名 | 資本金または出資金 | 出資比率 | 主要な事業内容 |
|-----------------------|-----------|---------|--------------------|
| フジテック株式会社 | 45,000千円 | 100.00% | 当社製品の物流業務及び組立・配線加工 |
| 菊水貿易（上海）有限公司 | 1,100千米ドル | 100.00% | 電気計測器等の販売 |
| KIKUSUI AMERICA, INC. | 1,300千米ドル | 100.00% | 電気計測器等の販売 |

② 事業年度末日における特定完全子会社の状況

該当事項はありません。

(9) 主要な借入先及び借入額 (2019年3月31日現在)

金融機関からの借入金はありません。

なお、当社は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と貸出コミットメント契約を締結しております。

当事業年度末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高は次のとおりであります。

| | |
|--------------|-------------|
| 貸出コミットメントの総額 | 1,000,000千円 |
| 借入実行残高 | －千円 |
| 差引額 | 1,000,000千円 |

(10) 前各号に掲げるもののほか、企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

Ⅱ. 株式に関する事項 (2019年3月31日現在)

(1) 発行可能株式総数 30,000,000株

(2) 発行済株式の総数 9,900,000株

(3) 当事業年度末の株主数 2,781名

(4) 大株主

| 株主名 | 持株数 (株) | 持株比率 (%) |
|--------------|---------|----------|
| 株式会社ケーティーエム | 909,200 | 11.03 |
| 菊水取引先持株会 | 884,200 | 10.72 |
| 菊水電子工業従業員持株会 | 441,340 | 5.35 |
| 株式会社みずほ銀行 | 360,000 | 4.37 |
| 小林寛子 | 346,800 | 4.21 |
| 日本生命保険相互会社 | 301,000 | 3.65 |
| ケル株式会社 | 220,000 | 2.67 |
| 株式会社三菱ＵＦＪ銀行 | 214,500 | 2.60 |
| 橋本幸雄 | 188,000 | 2.28 |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 183,000 | 2.22 |

(注) 当社は、自己株式1,654,750株を保有しておりますが、上記には含めておりません。
また、持株比率は、当該自己株式を控除して計算しております。

Ⅲ．新株予約権等に関する事項

（１）会社役員が有する新株予約権等のうち、職務執行の対価として交付されたものに関する事項

該当事項はありません。

（２）事業年度中に使用人等に対して職務執行の対価として交付された新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

（３）その他の新株予約権等に関する重要な事項

該当事項はありません。

IV. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の状況 (2019年3月31日現在)

| 地 位 | 氏 名 | 担 当 | 重要な兼職の状況 |
|-----------|---------|---------------|--|
| 代表取締役社長 | 小 林 一 夫 | 内部監査室長、未来創発室長 | |
| 専 務 取 締 役 | 小 林 剛 | 社長室長、技術本部長 | |
| 常 務 取 締 役 | 齋 藤 士 郎 | 管理本部長 | |
| 常 務 取 締 役 | 木 村 訓 芳 | 事業開拓室長、品質本部長 | |
| 取 締 役 | 松 村 尚 彦 | グローバル事業部長 | KIKUSUI AMERICA,INC.Chairman of the board 菊水貿易（上海）有限公司董事長 |
| 取 締 役 | 岩 崎 光 雄 | ソリューション事業部長 | |
| 取 締 役 | 流 石 昭 仁 | 生産本部長 | |
| 取 締 役 | 吉 澤 英 三 | | |
| 常 勤 監 査 役 | 山 崎 俊 宣 | | |
| 監 査 役 | 二 宮 嘉 世 | | |
| 監 査 役 | 北 川 貞 幸 | | |

- (注) 1. 取締役吉澤英三氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役二宮嘉世氏及び北川貞幸氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 取締役吉澤英三氏につきましては、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

(2) 事業年度中に辞任した取締役及び監査役に関する事項

該当事項はありません。

(3) 取締役及び監査役ごとの報酬等の総額

| 区 分 | 人 数 | 報酬等の額 |
|--------------|--------|--------------------|
| 取締役（うち社外取締役） | 8名（1名） | 215,648千円（3,600千円） |
| 監査役（うち社外監査役） | 3名（2名） | 18,000千円（7,200千円） |
| 計 | 11名 | 233,648千円 |

- (注) 1. 2006年6月29日開催の定時株主総会決議による報酬限度額は、取締役年額240,000千円以内、監査役年額36,000千円以内と決議いただいております。
2. 報酬等の額には、役員賞与引当金繰入額35,000千円（社外取締役を除く取締役7名 35,000千円）を含めておりません。

（４）各社外役員の主な活動状況

取締役会及び監査役会への出席状況

| 区 分 | 氏 名 | 取締役会出席回数（13回開催） | 監査役会出席回数（14回開催） |
|-------|---------|-----------------|-----------------|
| 取 締 役 | 吉 澤 英 三 | 11回 | — |
| 監 査 役 | 二 宮 嘉 世 | 13回 | 14回 |
| 監 査 役 | 北 川 貞 幸 | 13回 | 14回 |

- (注) 1. 社外取締役は、税理士の資格を有しており、その高い専門的な知識と豊富な経験を基に、独立した立場から当社の経営を監督し、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための提言を適宜行っております。
2. 各社外監査役は、主に財務的及び法的な見地等から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための提言等を適宜行っております。また、監査役会においては、監査に関する重要事項の協議等、適切な発言を行っております。

（５）責任限定契約に関する事項

当社は、社外役員については2006年6月29日開催の第55回定時株主総会で定款を変更し、責任限定契約に関する規定を設けておりますが、当社と社外役員は、責任限定契約を締結しておりません。

（６）社外役員の報酬等の総額

社外役員の報酬等の総額につきましては、「（３）取締役及び監査役ごとの報酬等の総額」に記載のとおりであります。

V. 会計監査人に関する事項

(1) 名称

E Y 新日本有限責任監査法人

(注) 新日本有限責任監査法人は、名称変更により、2018年7月1日をもってEY新日本有限責任監査法人となりました。

(2) 報酬等の額

① 当社の当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額 26,000千円

② 当社及び当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 26,000千円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査報酬の額を区分しておりませんので、上記①の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 当社の監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、職務遂行状況、見積り根拠等を確認し検討した結果、当該報酬等の額が相当であると判断したので、同意いたしました。

(3) 責任限定契約に関する事項

会計監査人と当社との間で会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がないときは、法令が定める額を限度として責任を負担する契約を締結することができる旨を定款に定めております。

(4) 解任又は不再任の決定の方針

当社の監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める解任事由に該当し、改善の見込みがないと判断するときは、監査役全員の同意により会計監査人を解任します。

また、当社の監査役会は、体制不備等会計監査人としての適格性ないし信頼性に問題が生じ、または会計監査人の適切な職務の執行が困難であると認められる事由が生じた場合には、株主総会に提出する議案の内容として、会計監査人の解任・不再任に関する議案を決定します。

Ⅵ. 業務の適正を確保するための体制の整備についての決議の内容の概要

（１）業務の適正を確保するための体制の整備についての決議の内容の概要

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制について「会社法の一部を改正する法律」（平成26年法律第90号）及び「会社法施行規則等の一部を改正する省令」（平成27年法務省令第6号）が2015年5月1日に施行されたことに伴い、2015年12月24日開催の取締役会の決議により内容を一部改定しております。

- ① 当社及び当社子会社の取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンス体制に関わる規程として当社グループの行動理念、行動指針、行動規範が定められているが、その他の関連規程の整備も行い、当社グループ内の周知徹底を図るための教育研修を実施し、遵守体制の有効性のチェックを強化する。

当社グループのコンプライアンス管理に関する内部通報制度や万一コンプライアンスに関連する事態が発生した場合の対応システムも整備する。

- ② 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報・文書の取扱いは、法令及び社内規程とそれに関するその他の定めに従い適切に保存・管理し、必要に応じて運用状況の検証並びに規程等の見直しを行う。

- ③ 当社及び当社子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社グループの経営上の多様なリスクに適切に対応するため、当社グループのリスク管理を経営の最重要課題の一つと位置づけ、予見されるリスクの識別、分析、評価を行い必要な対応策を講じる体制を構築する。

リスク管理組織としては、当社グループを統括する組織、会議体と各部門リスクを管理する体制を構築し、各種のリスクに応じた管理規程、ガイドライン等を作成し、運用状態の検証を通してリスクコントロールの徹底を図る。

④ 当社及び当社子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社グループの経営は、経営目標達成のための中期経営計画と年度事業計画が策定され、各業務の執行管理は、取締役会規程、各部門の業務分掌規程等に従って行われるが、業務執行権限を委譲された執行役員以下の業務執行ラインが事業目標達成にむけて業務を遂行する。

計画の進捗状況は、当社グループの取締役会等で定期的な報告がなされ、それぞれの経営レベルの会議で是正施策の検討・決定が行われる。

⑤ 当社並びに子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

子会社の業務の統括的な管理は、子会社管理担当取締役の所管のもと、事業内容、業績の定期的な報告及び重要案件の事前協議が行われる。

親会社間における不適切な取引または会計処理を防止するために報告・情報伝達体制を整備し、親会社管理部門の適時の点検・調査を行う。

⑥ 当社の監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項と当該使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

当社の規模、内容等から当面、監査役の職務を補助する専任スタッフの設置は行わず、内部監査室のスタッフ追加等による補助使用人の兼務体制で対応することとするが、監査役がその職務を補助する専任スタッフを置くことを求めた場合は専任スタッフを選任し、その人事、評価に関しては監査役会の同意を得ることとする。

⑦ 当社の取締役及び使用人並びに当社子会社の取締役、監査役及び使用人の当社監査役への報告体制及びその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

当社の取締役及び使用人並びに当社子会社の取締役、監査役及び使用人が、重大な法令または定款違反及び不正な行為並びに当社グループに著しい損害を及ぼすおそれのある事実を知ったときは、遅滞なく当社監査役に報告する。

当社グループの取締役及び使用人は、監査役会の定めるところに従い、各監査役の要請に応じて必要な報告及び情報提供を行う。

常勤監査役は、当社グループの取締役会のほか重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するために必要と思われる重要会議に出席すると共に、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書・記録を閲覧し、必要に応じて当社グループの取締役または使用人に説明を求めることができる。

また、監査役監査の実効性を高めるために、取締役、内部監査室は監査役と相互の積極的なコミュニケーションを図ることとする。

- ⑧ 当社の監査役に報告した者が当該報告をしたことを理由として不利な扱いを受けないことを確保するための体制
当社の監査役への報告を行った当社グループの役員及び使用人等に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社グループの役員及び使用人に周知徹底する。
- ⑨ 当社の監査役の職務執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項
当社の監査役がその職務の執行について、当社に対し、費用の前払い、負担した債務の弁済等の請求をしたときは、当該請求に係る費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務等の支払い等の処理を行う。
- ⑩ 社内の推進体制
上記の内部統制システム構築に関わる具体的な計画策定、運営、実効性の検証等の業務は内部監査室を主管部門とし、内部監査室の拡充及びプロジェクトチーム、委員会、関連部門の共同による全社的体制をもって行うこととする。

（２）業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当事業年度における業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は以下のとおりであります。

- ① 取締役の職務執行に関する事項
取締役会規則及びその他社内規程を制定し、取締役が法令並びに定款に則って行動するよう徹底しております。
- ② 監査役の職務執行に関する事項
社外監査役を含む監査役は、監査役会において定めた監査計画に基づき監査を実施すると共に、取締役会への出席や代表取締役、会計監査人並びに内部監査室との間で定期的に情報交換等を行うことで、取締役の職務執行の監査、内部統制の整備並びに運用状況を確認しております。
- ③ 内部監査の実施に関する事項
内部監査計画に基づき当社及び子会社の内部監査を実施しております。
- ④ 財務報告に係る内部統制に関する事項
内部統制の評価に関する計画に基づき、内部統制評価を実施しております。

Ⅶ. 株式会社の支配に関する基本方針

当社は、2007年3月29日開催の取締役会において、「株式会社の支配に関する基本方針」について、次のとおり決議いたしました。

（１）基本方針の内容

当社の株式は、株主及び投資家の皆様による自由な取引が認められており、当社の株式に対する大量買付提案等であっても、企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではなく、株式会社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的に株主全体の意思に基づいて行われるべきものと考えます。

しかしながら、株式の大量買付の中には、対象となる会社の経営陣の賛同を得ることなく、一方的に大量買付提案等を強行するといった動きが顕在化しております。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、経営の基本理念、企業価値、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保、向上させる者でなければならないと考えております。したがって、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大量買付提案等を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

（２）不適切な支配の防止のための取り組み

当社は、大量買付提案の買付行為がなされた場合について、その大量買付者が中長期的な経営意図や計画もなく一時的な収益の向上を狙ったもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、買収等の提案理由、買付方法等が不当・不明確であるなどの事情があるときは、企業価値を毀損し、株主共同の利益に資するとはいえないと考えます。

また、大量買付行為を受け入れるかどうかは、最終的には株主の皆様の判断に委ねるべきものでありますが、株主の皆様が適切な判断を行うためには十分な情報が提供される必要があると考えます。

そこで、大量買付行為に対するルールとして、特定の株主グループの株式等保有割合を20%以上となるような当社株式の買付を行う者に対して、①買付行為の前に、当社取締役会に対して十分な情報提供をすること、②その後、独立委員会がその買付行為を検討、評価・交渉・意見及び代替案立案のための期間を設けることをルールとして策定いたしました。このルールが遵守されない場合やその買付行為が企業価値または株主共同の利益に対する侵害・毀損をもたらすおそれのある買付と認められる場合に、当社はこれに対する買収防衛策を導入すべきものと考えます。

このような観点から、当社は、2016年5月13日開催の取締役会において、当社の企業価値・株主共同の利益を向上させるため、基本方針に照らし不適切な買付行為の防止の取り組みとして、当社株式の大量買付行為に関する対応策（買収防衛策）の継続を決議し、2016年6月29日開催の当社第65回定時株主総会において承認を得ております。

（３）上記（２）の取り組みについての取締役会の判断

当社取締役会は、上記（２）の取り組みが当社の上記（１）の基本方針に沿って策定され、当社の企業価値、株主共同の利益を損なうものではないと考えます。

また、取締役の恣意的な判断を排するため、独立委員会を設置し、独立委員会の勧告を最大限尊重して買収防衛策が発動されることが定められており、当社取締役の地位の維持を目的とするものではありません。

Ⅷ. 株式会社の状況に関する重要な事項

該当事項はありません。

（注）本事業報告中に記載の金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切り捨てております。
ただし、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産については小数点以下第3位を四捨五入しております。

連結計算書類

■ 連結貸借対照表 (2019年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|-----------------|-------------------|----------------------|-------------------|
| 資産の部 | | 負債の部 | |
| 流動資産 | 6,927,182 | 流動負債 | 1,705,195 |
| 現金及び預金 | 2,281,879 | 支払手形及び買掛金 | 790,608 |
| 受取手形及び売掛金 | 2,295,410 | リース債務 | 3,444 |
| 電子記録債権 | 375,673 | 未払金 | 352,978 |
| 商品及び製品 | 694,814 | 未払法人税等 | 79,983 |
| 仕掛品 | 455,492 | 未払消費税等 | 80,061 |
| 原材料及び貯蔵品 | 738,668 | 賞与引当金 | 217,181 |
| その他 | 86,852 | 役員賞与引当金 | 35,000 |
| 貸倒引当金 | △1,608 | 製品保証引当金 | 15,385 |
| 固定資産 | 4,832,109 | その他 | 130,551 |
| 有形固定資産 | 2,552,281 | 固定負債 | 649,375 |
| 建物及び構築物 | 628,978 | 長期未払金 | 70,367 |
| 機械装置及び運搬具 | 110,714 | リース債務 | 8,515 |
| 工具、器具及び備品 | 304,854 | 繰延税金負債 | 103,451 |
| 土地 | 1,454,495 | 役員退職慰労引当金 | 9,306 |
| リース資産 | 10,877 | 退職給付に係る負債 | 191,569 |
| 建設仮勘定 | 42,360 | 長期預り保証金 | 266,164 |
| 無形固定資産 | 109,650 | 負 債 合 計 | 2,354,570 |
| 投資その他の資産 | 2,170,177 | 純資産の部 | |
| 投資有価証券 | 1,353,889 | 株主資本 | 8,898,760 |
| 繰延税金資産 | 9,728 | 資本金 | 2,201,250 |
| 保険積立金 | 693,237 | 資本剰余金 | 2,749,657 |
| 差入保証金 | 53,804 | 利益剰余金 | 4,768,759 |
| その他 | 61,533 | 自己株式 | △820,906 |
| 貸倒引当金 | △2,015 | その他の包括利益累計額 | 505,960 |
| 資 産 合 計 | 11,759,291 | その他有価証券評価差額金 | 483,832 |
| | | 為替換算調整勘定 | 28,119 |
| | | 退職給付に係る調整累計額 | △5,991 |
| | | 純 資 産 合 計 | 9,404,720 |
| | | 負 債 純 資 産 合 計 | 11,759,291 |

招集ご通知

株主総会参考書類

事業報告

連結計算書類

計算書類

監査報告書

■ 連結損益計算書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | |
|-----------------|---------|-----------|
| 売上高 | | 8,917,040 |
| 売上原価 | | 4,270,529 |
| 売上総利益 | | 4,646,510 |
| 販売費及び一般管理費 | | 3,950,102 |
| 営業利益 | | 696,407 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 2,987 | |
| 受取配当金 | 44,931 | |
| その他 | 10,517 | 58,436 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 2,651 | |
| 売上割引 | 16,556 | |
| 為替差損 | 26,684 | |
| その他 | 7,554 | 53,446 |
| 経常利益 | | 701,396 |
| 特別損失 | | |
| 解体撤去費用 | 8,533 | |
| 製品保証引当金繰入額 | 17,488 | 26,021 |
| 税金等調整前当期純利益 | | 675,375 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 66,215 | |
| 法人税等調整額 | 161,782 | 227,998 |
| 当期純利益 | | 447,376 |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 | | 3,639 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 443,736 |

■ 連結株主資本等変動計算書（2018年4月1日から2019年3月31日まで）

（単位：千円）

| | 株主資本 | | | | |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 2,201,250 | 2,737,648 | 4,508,177 | △750,858 | 8,696,217 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △183,155 | | △183,155 |
| 子会社株式の追加取得 | | 12,009 | | | 12,009 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | | 443,736 | | 443,736 |
| 自己株式の取得 | | | | △70,048 | △70,048 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | | | | | |
| 当期変動額合計 | － | 12,009 | 260,581 | △70,048 | 202,543 |
| 当期末残高 | 2,201,250 | 2,749,657 | 4,768,759 | △820,906 | 8,898,760 |

| | その他の包括利益累計額 | | | | 非支配株主持分 | 純資産合計 |
|---------------------|--------------|----------|--------------|---------------|---------|-----------|
| | その他有価証券評価差額金 | 為替換算調整勘定 | 退職給付に係る調整累計額 | その他の包括利益累計額合計 | | |
| 当期首残高 | 682,616 | 36,016 | 1,908 | 720,541 | 38,744 | 9,455,504 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | △183,155 |
| 子会社株式の追加取得 | | | | | | 12,009 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | | | | | 443,736 |
| 自己株式の取得 | | | | | | △70,048 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △198,784 | △7,897 | △7,899 | △214,581 | △38,744 | △253,326 |
| 当期変動額合計 | △198,784 | △7,897 | △7,899 | △214,581 | △38,744 | △50,783 |
| 当期末残高 | 483,832 | 28,119 | △5,991 | 505,960 | － | 9,404,720 |

計算書類

貸借対照表 (2019年3月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|-----------------|-------------------|----------------------|-------------------|
| 資産の部 | | 負債の部 | |
| 流動資産 | 6,481,211 | 流動負債 | 1,667,454 |
| 現金及び預金 | 1,894,767 | 支払手形 | 327,984 |
| 受取手形 | 327,554 | 買掛金 | 468,838 |
| 売掛金 | 2,040,360 | リース債務 | 2,547 |
| 電子記録債権 | 375,673 | 未払金 | 344,456 |
| 商品及び製品 | 605,462 | 未払費用 | 46,113 |
| 仕掛品 | 454,434 | 未払法人税等 | 74,532 |
| 原材料及び貯蔵品 | 735,733 | 未払消費税等 | 75,929 |
| その他 | 47,225 | 賞与引当金 | 205,044 |
| 固定資産 | 5,018,087 | 役員賞与引当金 | 35,000 |
| 有形固定資産 | 2,467,248 | 製品保証引当金 | 15,385 |
| 建物 | 567,881 | その他 | 71,622 |
| 構築物 | 13,592 | 固定負債 | 651,776 |
| 機械及び装置 | 94,801 | 長期未払金 | 70,367 |
| 車両運搬具 | 0 | リース債務 | 7,394 |
| 工具、器具及び備品 | 285,107 | 繰延税金負債 | 133,122 |
| 土地 | 1,454,495 | 退職給付引当金 | 174,727 |
| リース資産 | 9,009 | 長期預り保証金 | 266,164 |
| 建設仮勘定 | 42,360 | 負 債 合 計 | 2,319,231 |
| 無形固定資産 | 108,353 | 純資産の部 | |
| 借地権 | 2,360 | 株主資本 | 8,696,235 |
| ソフトウェア | 104,698 | 資本金 | 2,201,250 |
| 電話加入権 | 1,295 | 資本剰余金 | 2,737,648 |
| 投資その他の資産 | 2,442,485 | 資本準備金 | 1,936,250 |
| 投資有価証券 | 1,353,889 | その他資本剰余金 | 801,398 |
| 関係会社株式 | 167,089 | 利益剰余金 | 4,578,243 |
| 出資金 | 1,410 | 利益準備金 | 233,600 |
| 関係会社出資金 | 120,352 | その他利益剰余金 | 4,344,643 |
| 長期前払費用 | 4,832 | 買換資産圧縮積立金 | 320,706 |
| 保険積立金 | 693,237 | 別途積立金 | 3,370,000 |
| 差入保証金 | 48,868 | 繰越利益剰余金 | 653,936 |
| その他 | 54,820 | 自己株式 | △820,906 |
| 貸倒引当金 | △2,015 | 評価・換算差額等 | 483,832 |
| 資 産 合 計 | 11,499,299 | その他有価証券評価差額金 | 483,832 |
| | | 純 資 産 合 計 | 9,180,067 |
| | | 負 債 純 資 産 合 計 | 11,499,299 |

■ 損益計算書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | |
|--------------|---------|-----------|
| 売上高 | | 8,592,945 |
| 売上原価 | | 4,241,517 |
| 売上総利益 | | 4,351,428 |
| 販売費及び一般管理費 | | 3,657,763 |
| 営業利益 | | 693,664 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 339 | |
| 受取配当金 | 44,930 | |
| その他 | 7,782 | 53,053 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 2,651 | |
| 売上割引 | 16,288 | |
| その他 | 10,408 | 29,347 |
| 経常利益 | | 717,370 |
| 特別損失 | | |
| 解体撤去費用 | 8,533 | |
| 製品保証引当金繰入額 | 17,552 | 26,086 |
| 税引前当期純利益 | | 691,283 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 59,694 | |
| 法人税等調整額 | 168,894 | 228,588 |
| 当期純利益 | | 462,695 |

■ 株主資本等変動計算書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | |
|-------------------------|-----------|-----------|--------------|-------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | |
| | | 資本準備金 | その他 資本剰余金 | 資本剰余金 合計 |
| 当期首残高 | 2,201,250 | 2,736,250 | 1,398 | 2,737,648 |
| 当期変動額 | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | |
| 買換資産圧縮積立金の取崩 | | | | |
| 資本準備金からその他資本剰余金 への振替 | | △800,000 | 800,000 | — |
| 別途積立金の積立 | | | | |
| 当期純利益 | | | | |
| 自己株式の取得 | | | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | | | | |
| 当期変動額合計 | — | △800,000 | 800,000 | — |
| 当期末残高 | 2,201,250 | 1,936,250 | 801,398 | 2,737,648 |

| | 株主資本 | | | | |
|-------------------------|---------|---------------|-----------|-------------|-------------|
| | 利益剰余金 | | | | |
| | 利益準備金 | その他利益剰余金 | | | 利益剰余金 合計 |
| | | 買換資産 圧縮積立金 | 別途積立金 | 繰越利益 剰余金 | |
| 当期首残高 | 233,600 | 323,034 | 3,300,000 | 442,069 | 4,298,703 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | △183,155 | △183,155 |
| 買換資産圧縮積立金の取崩 | | △2,328 | | 2,328 | — |
| 資本準備金からその他資本剰余金 への振替 | | | | | |
| 別途積立金の積立 | | | 70,000 | △70,000 | — |
| 当期純利益 | | | | 462,695 | 462,695 |
| 自己株式の取得 | | | | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | | | | | |
| 当期変動額合計 | — | △2,328 | 70,000 | 211,867 | 279,539 |
| 当期末残高 | 233,600 | 320,706 | 3,370,000 | 653,936 | 4,578,243 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | 純資産合計 |
|-------------------------|----------|-----------|----------------------|-----------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他 有価証券 評価差額金 | |
| 当期首残高 | △750,858 | 8,486,743 | 682,616 | 9,169,360 |
| 当期変動額 | | | | |
| 剰余金の配当 | | △183,155 | | △183,155 |
| 買換資産圧縮積立金の取崩 | | — | | — |
| 資本準備金からその他資本剰余金 への振替 | | — | | — |
| 別途積立金の積立 | | — | | — |
| 当期純利益 | | 462,695 | | 462,695 |
| 自己株式の取得 | △70,048 | △70,048 | | △70,048 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純 額） | | | △198,784 | △198,784 |
| 当期変動額合計 | △70,048 | 209,491 | △198,784 | 10,707 |
| 当期末残高 | △820,906 | 8,696,235 | 483,832 | 9,180,067 |

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

独立監査人の監査報告書

2019年5月13日

菊水電子工業株式会社
取締役会 御 中

E Y 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 薄 井 誠 ㊞
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 鈴 木 博 貴 ㊞
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、菊水電子工業株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、菊水電子工業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

会計監査人の監査報告書 謄本

独立監査人の監査報告書

2019年5月13日

菊水電子工業株式会社
取締役会 御 中

E Y 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 薄 井 誠 ㊞
業 務 執 行 社 員指定有限責任社員 公認会計士 鈴 木 博 貴 ㊞
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、菊水電子工業株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第68期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告書 謄本

監査報告書

当監査役会は、2018年4月1日から2019年3月31日までの第68期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告に基づき、審議の結果、監査役全員の一致した意見として、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の規程に準拠し、監査の方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、必要に応じて子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
 - ④ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- ④ 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項は認められません。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号口の各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと認めます。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2019年5月14日

菊水電子工業株式会社 監査役会

常勤監査役 山 崎 俊 宣 ㊟

社外監査役 二 宮 嘉 世 ㊟

社外監査役 北 川 貞 幸 ㊟

以 上



IR情報

当社のIR情報をご案内しております。



企業情報

当社の会社概要、環境への取り組み等をご案内しております。



製品情報

新製品および当社が扱う全製品の情報がご覧いただけます。
カタログのダウンロードもご利用いただけます。



展示会・イベント

イベント告知やレポートを掲載しております。



ナレッジ・プラザ

当社製品にまつわる技術情報をご提供しております。

キクスイは「計測」「電源」技術でスマートライフの実現に取り組んでいます
計測と電源のエキスパートカンパニー 菊水電子工業

HOME | GLOBAL | サイト内検索 | 文字サイズ変更 ▼

製品情報 PRODUCTS | 保守サービス USER SUPPORT | 企業情報 COMPANY | ダウンロード DOWNLOAD | お問い合わせ CONTACT | 採用情報 RECRUIT

営業のご案内 導入をご検討されている方へ | ナレッジ・プラザ 技術情報をご提供します | 展示会・イベント イベントのご案内レポートを掲載しています

ニュースリリース

更新情報
2019.4.11 NEW
テクノフロンティア2019・オープンセミナーのご案内
2019.4.9 NEW
ダウンロードを更新しました。
2019.3.22 NEW
ダウンロードを更新しました。
more...

製品に関するお知らせ
2019.9.7
「北海道地震対策」に関連した無償点検サービスの実施について【詳細】
2019.9.3
「キクスイ」アウトレットセールを実施いたします。
(数量限定、売切即売！)【詳細】
2018.7.9
「西日本豪雨による災害」に関連した無償点検サービスの実施について【詳細】
more...

プレスリリース
2017.6.26
コンパクト・ワイドレンジ国産電源 PWR-01シリーズを発売
2016.10.19
ソリューション製品情報サイト「KIKUSUI mag (キクスイマガ)」開始のお知らせ
2015.4.30
LAN/USB接続環境のコンパクト国産安定化電源 PPK-Aシリーズを発売
more...

IR情報
2019.3.22 NEW
3月第3回株式の取崩状況及び取崩終了に関するお知らせ
(814B)
2019.3.5
2月第3回株式の取崩状況に関するお知らせ
(704B)
2019.2.27
株主の権利に関するお知らせ
(674B)
more...

無償点検サービスの実施について:「北海道地震対策」[西日本豪雨による災害]
「熊本地震」に関連した無償点検サービスの実施について:「東日本大震災」に関するお知らせ

備の設置や可搬性の高い
なんでもがの間違い
マンがでわかる即対応住宅用
計測器も5分
A1000

コーヒーブレイク
お仕事の合間に
お茶しめくどい
計測器も5分

レンタルの
ご案内
計測器も5分

5つの質問
計測器も5分

計測と電源のエキスパート・カンパニー 菊水電子工業株式会社
ご質問の際はお客様にお問い合せください。 お問い合わせ | 営業のご案内
キクスイお客様サポートダイヤル: 045-593-8600 受付時間 (平日) 10:00~12:00/13:00~17:00

製品情報 | 保守サービス | 企業情報 | ダウンロード | お問い合わせ | 採用情報 | 営業のご案内 | ナレッジ・プラザ | 展示会・イベント |
コーヒーブレイク | ニュースリリース | サイトマップ | このサイトについて | プライバシーポリシー |

© KIKUSUI ELECTRONICS CORP. © KIKUSUI AMERICA INC. © 株式会社(上海)海潤機器

MEMO

This image shows a full page of blank, lined paper. It features approximately 20 horizontal blue or grey lines spaced evenly apart, typical of notebook paper. The lines extend across the entire width of the page, leaving small margins at the top and bottom. There are no vertical lines, text, or other markings on the page.

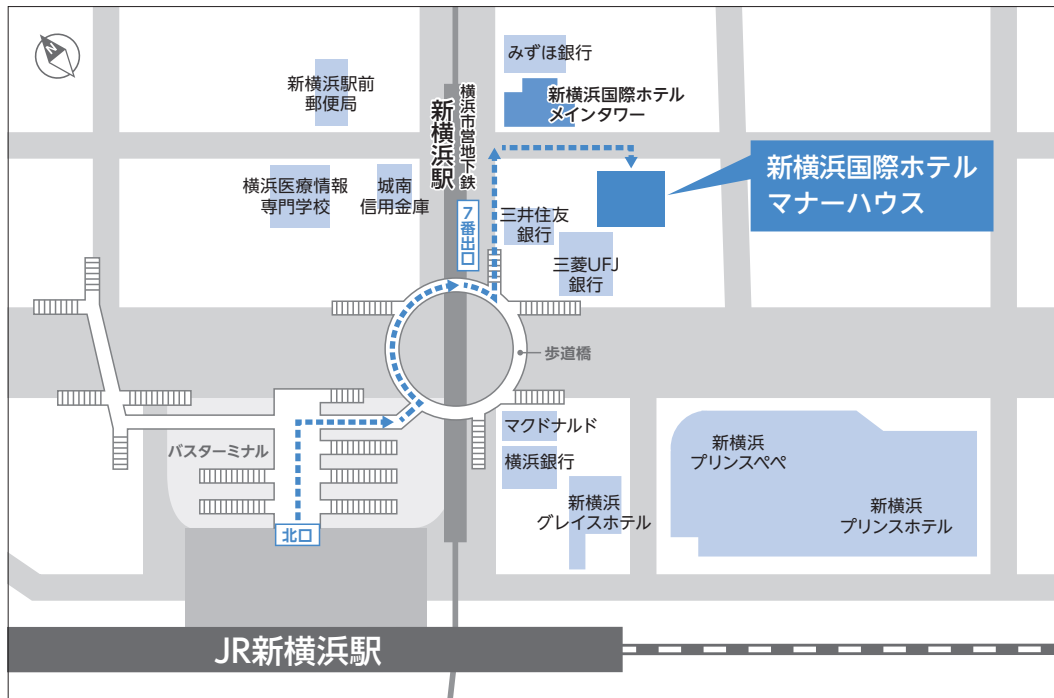
[illegible]

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

株主総会会場ご案内図

開催日時 || 2019年6月27日（木曜日）午前10時

開催場所 || 新横浜国際ホテル マナーハウス4階 ヒルトップ
神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目7番地8 TEL:045-473-1311 (代表)



交通の
ご案内

JR線をご利用の場合

JR新横浜駅

北口

より 徒歩3分

横浜市営地下鉄をご利用の場合

新横浜駅

7番出口

より 徒歩1分